



ティーチミー・バイ・ザ・ボールゲーム

美術館やコンサートで感動することはよくある。映画館でも珍しくないだろう。しかし、「科学館」という場所で感動したのは初めてだった。東京のお台場に7月10日にオープンした『日本科学未来館』でのことだ。テーマは「環境」「生命」「技術革新」「情報」の4つ。本誌の読者なら、迷わず情報技術のセクションにある「インターネット物理モデル」に直行するのが大吉だ。そこでは、インターネット(正確にはネットワーク)で情報がやりとりされる仕組みが、映像でもLEDでもなく「ボールを転がす」ことで表現されているのだ。

これがどれほど大変なことか、ちょっと想像してほしい。私は今、ThinkPad T20のキーボードに、指で物理的な力を加えながら、テキストエディターの画面上に文字を並べている。しかし、それは同時に、メモリー上のどこかに膨大なオンかオフの信号の束として記録もされている。きつと次のような感じで。

。そしてこの原稿が仕上がる1時間後くらいに、インターネットマガジン編集部(20歳!)Aくん向け、メールに添付して送付するだろう。

そのデータは、私の仕事場のマンションの屋上に設置されているアンテナから無線で恵比寿ガーデンプレイス屋上のアンテナに送られる。そして、ルーターの指示によって、おそらく大手町付近のIXを一度は経由して、10数ホップで市ヶ谷のインプレスのサーバーに届くはずだ。ここまででは、もう皆さんよくご存じだろう。では、さっき書いたとを

本物のボールに置き換えて、物理的なボールの移動で情報の移動を表していたきたい。とりあえず、ボ

ールは適当なものを買ってきたとしよう。しかし、キーボードを押した直後にオンとオフのデータがメモリー上に記録されるとき、つまり白と黒のボールを並べる時点ですでにほとんどの人はお手上げだろう。

この展示では、文字の選択(ボールの配列)をキーボードではなく大きなホイールを回転させて行う。文字を選択して、レバーで送り先を指定し、手ごたえのある「送信」ボタンを押すと、なんと行儀よく並んだボール群は、出口からコロコロとレールの上を転がっていく。そして、最初のコンピュータ(ルーター)に到達する。さらにそこから別のサーバーを経由して、最終的に別のターミナルに到着したボール群は、送信したときと同じ配列で並ぶことになるのだ。まあ、こうして文字で書いても限界があるからこそ、この展示が実現したことのおすごさがあるのだ。

誰もが考え付くことはできても、次の瞬間「たいへんそうだなー」と思って実行しないプロジェクトの最右翼。あるいは、世界初アンドもっとわかりやすい(しかもルックスがカッコいい!!)ネットワークに関する展示に違いない。製作にあたった中心人物の1人であるデザイナー東泉一郎氏によると、企画会議の中では別の展示としてデジタルからアナログに変換されたあとの状態をなんと「水」で表現する案も出たそう。科学館おるべし。だが取材の際、東泉氏が漏らしたひとつは、科学では解明し得ないニュアンスに満ちていた。

「これ、いつの頃からか“男気”プロジェクトになっちゃったんですよ。」

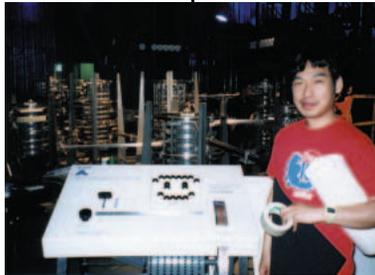


写真 デザイナー東泉一郎氏と「インターネット物理モデル」。中央に見えているフェイスマークが8×8のボールで描かれている。

日本科学未来館
www.miraikan.jst.go.jp



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp